

第 5 章

子育てと母親自身の生き方

諸田 裕子



第1節

生活の満足度

生活満足度は、全般的に高い。しかしながら、「母親として」満足している割合は、専業主婦75.9%（かなり+まあ満足している）に対し、常勤66.4%（同）となっている。

第5章では、子育て中の母親自身の意識に目を向けてみた。ここでは、母親たちが、自身の生活に満足しているかどうかについて、「母親としては」「妻としては」「働く（活動する）女性としては」「ひとりの人間として総合すると」という4つの立場を設定してたずねた（表5-1）。

全体でみると、「母親」として、「妻」として「かなり満足している」+「まあ満足している」割合は6割から7割となっている。前回調査と比較しても、この傾向は変わらない（巻末基礎集計表参照）。

では、今回の結果について、母親の就労状況別にみると（同表5-1）、「母親」として「かなり+まあ満足している」割合は、

専業主婦75.9%に対して、パート72.3%、常勤66.4%となっている。専業主婦と常勤では、約10ポイントの差がある。この結果は、専業主婦、パート、常勤の順に、実際の行動面で「母親」として子育てを行う時間の不足を反映していると考えられる。しかし、常勤の母親が、自身が満足できるレベルを高め設定している（あるいは、専業主婦が低めに設定している）ことの反映としても考えられるのではないだろうか。

一方、「働く（活動する）女性」としての満足度（「かなり+まあ満足している」の合計）は、専業主婦21.3%に対して、パート58.5%、常勤70.9%となっている。

■表5-1 生活の満足度(母親就労状況別)

(%)

		全体 (3477人)	母親就労状況別		
			専業主婦 (1709人)	パート (950人)	常勤 (631人)
A. 母親としては	かなり満足している	11.5	12.4	11.4	10.6
	まあ満足している	60.9	63.5	60.9	55.8
	あまり満足していない	22.6	19.8	23.9	26.9
	ぜんぜん満足していない	3.1	2.6	2.5	4.8
	無答不明	1.8	1.7	1.3	1.9
B. 妻としては	かなり満足している	8.5	9.4	8.5	7.3
	まあ満足している	53.1	58.3	49.8	45.0
	あまり満足していない	25.9	25.0	27.6	26.3
	ぜんぜん満足していない	6.2	5.3	5.9	8.1
	無答不明	6.3	1.9	8.2	13.3
C. 働く(活動する)女性 としては	かなり満足している	5.3	1.6	7.1	13.5
	まあ満足している	35.9	19.7	51.4	57.4
	あまり満足していない	32.4	35.6	32.7	24.2
	ぜんぜん満足していない	16.7	27.4	6.6	3.0
	無答不明	9.7	15.7	2.2	1.9
D. ひとりの人間として 総合すると	かなり満足している	5.7	4.7	5.7	8.4
	まあ満足している	56.2	56.1	55.7	59.6
	あまり満足していない	31.2	32.1	33.1	25.8
	ぜんぜん満足していない	4.4	4.6	3.7	4.0
	無答不明	2.5	2.5	1.9	2.2

第2節

配偶者との関係

配偶者とお互いの関心事について話し合い、「あなた自身」について理解してくれていると思えるような関係、「子育てに協力的」であると思う関係を、夫婦が日常的に作り上げ維持していることは、かなりの期間にわたって継続する子育て生活にとって重要である。

◆◆全体の傾向

母親たちは、配偶者(子どもの父親)との間にどのような関係をつむぎながら、子育てを行っているのだろう。話し合う頻度、理解度、子育て協力度についてたずねた(表5-2-1~3)。

まず、「ふだんからご夫婦でお互いの関心事について話し合うことがありますか」という設問によって、話し合う頻度をたずねている。「よく話し合う」23.2%、「まあまあ話し合う」45.8%となっており、全体の約7割の母親が配偶者との間に互いの関心事についての会話をもっていることがわかる。

次に、理解度については、「あなたの配偶者は、あなたが関心をもっていることや悩みなど『現在のあなたご自身』を理解してくれていると思いますか」とたずねた。「よく理解している」という回答は15.0%とさほど高くはないものの、「まあまあ理解している」46.5%を合わせると、全体の6割の母親たちが、配偶者によって理解されていると感じている。

では、子育てへの協力度はどうだろうか。「とても協力的」26.0%、「まあまあ協力的」44.1%となっており、全体の7割の母親が、配偶者が協力的であると認識している。

◆◆仕事をもち母親にとっての
配偶者の子育て協力度

また、配偶者の子育て協力度をどのように認識するか(つまり、評価しているか)は、母親の就労状況によって異なっており、「と

ても協力的」と「まあまあ協力的」を合わせた割合は、専業主婦74.6%、パート66.1%、常勤67.5%となっており、専業主婦と常勤の間に7.1ポイント、専業主婦とパートの間では8.5ポイントの差がみられた。仕事をもっているかどうかによって、配偶者に協力してほしい子育ての質と量が異なっているとも考えられる(表省略)。

◆◆生活満足度を左右する配偶者との関係

では、こうした配偶者との関係は、母親たちの生活満足度にどのような影響を及ぼしているのだろうか。前節で検討した「生活満足度」を配偶者との関係別にまとめたのが、表5-2-1~3の右半分の列である。「母親としての生活満足度」についてみると、配偶者と「よく話し合う」母親のうち、20.9%が「かなり満足している」と回答しているのに対して、配偶者と「ぜんぜん話し合わない」母親のうち、38.5%は「あまり満足していない」、9.4%は「ぜんぜん満足していない」と回答している。理解度、協力度についても、また、「妻としての満足度」「働く(活動する)女性としての満足度」についても、同様の傾向を示している。配偶者とお互いの関心事についてよく話し合い、「あなた自身」について理解してくれていると思えるような関係、「子育てに協力的」であると思う関係を、夫婦が日常的に作り上げ維持していることは、かなりの期間にわたって継続する子育て生活にとって重要である。

■表5-2-1 母親としての生活満足度(配偶者との関係別)

(%)

		全体 (3477人)	母親としての生活満足度				
			かなり満足 している	まあ満足 している	あまり満足 していない	ぜんぜん満足 していない	無答不明
ふだんから夫婦でお互いの関心事について話し合うことがあるか	よく話し合う	23.2	20.9	59.5	16.7	2.7	0.1
	まあまあ話し合う	45.8	9.8	66.0	21.4	2.1	0.6
	あまり話し合わない	19.6	6.3	60.6	28.4	3.5	1.2
	ぜんぜん話し合わない	3.4	12.0	40.2	38.5	9.4	0.0
配偶者は「現在のあなたご自身」を理解しているか	よく理解している	15.0	23.1	60.6	14.6	1.5	0.2
	まあまあ理解している	46.5	11.4	66.0	19.9	2.2	0.5
	あまり理解していない	23.9	7.3	60.1	28.4	3.2	1.0
	ぜんぜん理解していない	6.8	8.1	47.7	35.3	8.5	0.4
配偶者は他のお父さんたちと比べて子育てに協力的だと思うか	とても協力的	26.0	18.4	60.2	18.1	3.0	0.3
	まあまあ協力的	44.1	9.8	66.2	21.8	1.6	0.5
	あまり協力的でない	16.6	8.0	59.2	27.3	4.7	0.9
	ぜんぜん協力的でない	5.4	10.7	49.2	31.6	7.5	1.1

注1) サンプル数は3477人。

注2) 「ふだんから夫婦でお互いの関心事について話し合うことがあるか」「配偶者は『現在のあなたご自身』を理解しているか」「配偶者は他のお父さんたちと比べて子育てに協力的だと思うか」というそれぞれの設問の回答で、「配偶者と一緒に暮らしていない」と「無答不明」は表から省略した。

■表5-2-2 妻としての生活満足度(配偶者との関係別)

(%)

		全体 (3477人)	妻としての生活満足度				
			かなり満足 している	まあ満足 している	あまり満足 していない	ぜんぜん満足 していない	無答不明
ふだんから夫婦でお互いの関心事について話し合うことがあるか	よく話し合う	23.2	24.0	61.9	11.9	2.0	0.2
	まあまあ話し合う	45.8	5.4	65.3	25.4	3.1	0.8
	あまり話し合わない	19.6	1.6	37.7	47.7	11.1	1.9
	ぜんぜん話し合わない	3.4	0.0	17.1	45.3	37.6	0.0
配偶者は「現在のあなたご自身」を理解しているか	よく理解している	15.0	29.4	58.3	10.6	1.2	0.6
	まあまあ理解している	46.5	8.0	70.2	18.9	2.0	0.8
	あまり理解していない	23.9	1.1	41.6	48.6	7.6	1.2
	ぜんぜん理解していない	6.8	0.0	15.3	48.1	36.2	0.4
配偶者は他のお父さんたちと比べて子育てに協力的だと思うか	とても協力的	26.0	20.8	59.8	16.0	2.9	0.4
	まあまあ協力的	44.1	5.7	64.8	25.2	3.7	0.7
	あまり協力的でない	16.6	2.6	40.6	47.4	7.8	1.6
	ぜんぜん協力的でない	5.4	0.5	25.7	39.0	32.6	2.1

注1) サンプル数は3477人。

注2) 「ふだんから夫婦でお互いの関心事について話し合うことがあるか」「配偶者は『現在のあなたご自身』を理解しているか」「配偶者は他のお父さんたちと比べて子育てに協力的だと思うか」というそれぞれの設問の回答で、「配偶者と一緒に暮らしていない」と「無答不明」は表から省略した。

■表5-2-3 働く(活動する)女性としての生活満足度(配偶者との関係別)

(%)

		全体 (3477人)	働く(活動する)女性としての生活満足度				
			かなり満足 している	まあ満足 している	あまり満足 していない	ぜんぜん満足 していない	無答不明
ふだんから夫婦でお互いの関心事について話し合うことがあるか	よく話し合う	23.2	10.5	37.9	30.1	13.5	8.0
	まあまあ話し合う	45.8	4.1	38.0	32.3	16.8	8.8
	あまり話し合わない	19.6	2.3	29.5	35.0	23.0	10.1
	ぜんぜん話し合わない	3.4	2.6	24.8	39.3	26.5	6.8
配偶者は「現在のあなたご自身」を理解しているか	よく理解している	15.0	11.0	42.5	27.5	11.3	7.7
	まあまあ理解している	46.5	5.3	39.4	31.2	15.1	9.1
	あまり理解していない	23.9	3.0	27.6	37.6	23.1	8.7
	ぜんぜん理解していない	6.8	1.7	23.4	35.3	29.8	9.8
配偶者は他のお父さんたちと比べて子育てに協力的だと思うか	とても協力的	26.0	9.3	40.2	27.7	13.8	9.1
	まあまあ協力的	44.1	4.0	35.5	35.2	16.6	8.7
	あまり協力的でない	16.6	2.6	30.6	34.9	23.3	8.7
	ぜんぜん協力的でない	5.4	4.8	32.1	27.3	27.3	8.6

注1) サンプル数は3477人。

注2) 「ふだんから夫婦でお互いの関心事について話し合うことがあるか」「配偶者は『現在のあなたご自身』を理解しているか」「配偶者は他のお父さんたちと比べて子育てに協力的だと思うか」というそれぞれの設問の回答で、「配偶者と一緒に暮らしていない」と「無答不明」は表から省略した。

第3節

子育ての楽しさ

多くの母親が子育てを「楽しい」と感じているが、配偶者に理解があり、子育てに協力的であると感じていることによってその「楽しさ」は高まる。子育てを「とても楽しい」と感じているのは、常勤の仕事をもつ母親たちである。一方で、「子育てしながら働くことの負担感」は、常勤がもっとも高い。

母親は、子育てをどのように感じているのだろうか。ここでは、子育ての楽しさとともに負担感についてもたずねている。

◆◆子育ての楽しさをもたらす 配偶者の理解や協力

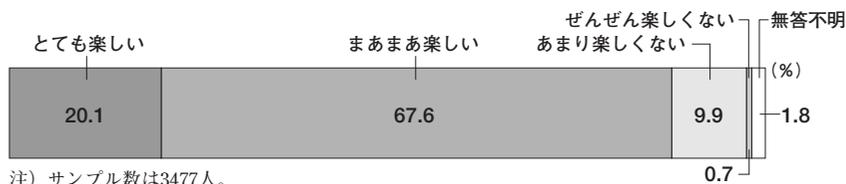
全体として、母親たちは子育てを楽しんでいる(図5-1)。「楽しい」と回答した割合は、「とても楽しい」20.1%、「まあまあ楽しい」67.6%で、合計すると9割近くにのぼる。しかし、この楽しさも配偶者が協力的かどうか、あるいは、協力的であると感じられるかどうかによって、大きく異なっている(図5-2)。「とても協力的」と回答した母親のうち、33.0%が子育てを「とても楽しい」と回答しているのに対し、「ぜんぜん協力的でない」場合は、子育てを「とても楽しい」と感じる母親は11.2%にすぎない。また、「とても協力的」な場合は、「あまり+ぜんぜん楽しくない」という回答が5.9%であるのに対して、「ぜんぜん協力的でない」場合は、26.8%が子育てを「あまり+ぜんぜん楽しく

ない」と感じている。配偶者の理解度と子育ての楽しさについてもまったく同様の傾向を示している(図省略)。

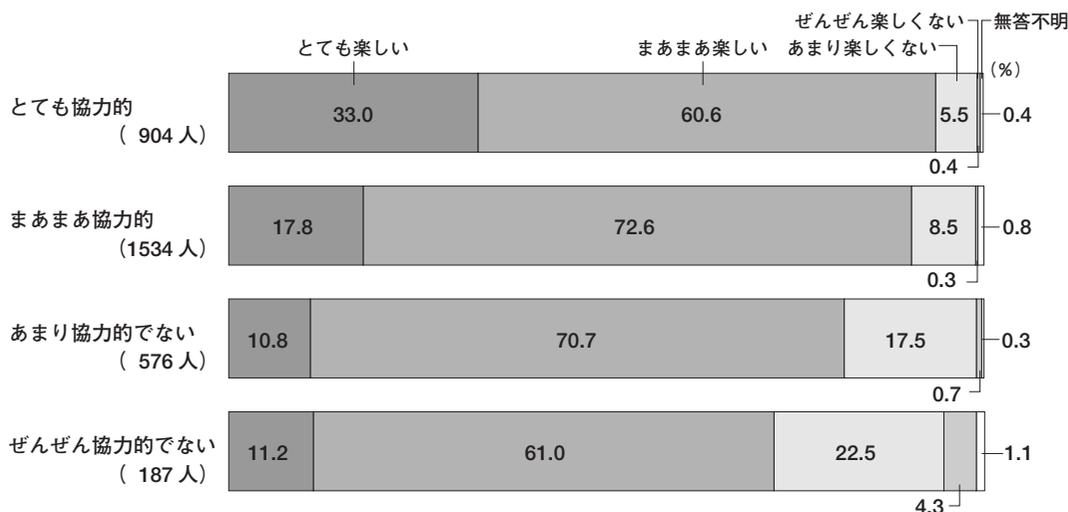
◆◆常勤の母親は、子育てを楽しんでいる

母親の就労状況と子育ての楽しさはどのような関係にあるのだろうか。「とても楽しい」と「まあまあ楽しい」の合計をみると、常勤90.0%、パート87.7%、専業主婦87.6%となっており、就労状況にかかわらず、母親たちは子育てを楽しんでいることがわかる(図5-3)。しかし、「とても楽しい」に限ってみると、専業主婦18.1%に対して常勤26.0%(ちなみに、前回調査では専業主婦14.9%、常勤26.6%)と、常勤の母親のほうが、子育てを「とても」楽しんでいることがわかる(同図)。生活する場面をいくつももっていることで(家庭だけではなく、会社など)楽しむという感覚をもつことができているのかもしれない。ちなみに、子どもの学年別や性別にみた場合、顕著な差はみられなかった(巻末基礎集計表参照)。

■図5-1 子育ての楽しさ

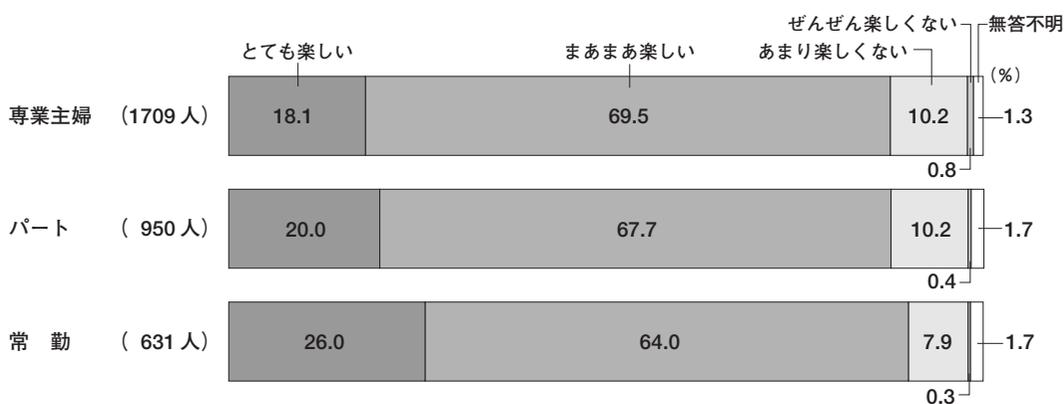


■図5-2 子育ての楽しさ(配偶者の協力別)



注) 「配偶者は他のお父さんたちと比べて子育てに協力的だと思うか」という設問の回答で「配偶者と一緒に暮らしていない」と「無答不明」は図から省略した。

■図5-3 子育ての楽しさ(母親就労状況別)



◆◆常勤にとって負担感は大きい

子育ては楽しさばかりではない。調査では、とくに、「子育てをしながら働いていること」の負担感についてたずねている(表5-3)。全体としては、「とても負担」は17.6%、「少し負担」は47.2%、「あまり負担ではない」は22.1%、「ぜんぜん負担ではない」が3.7%となっている。母親の就労状況別にみると(同表)、「とても負担」と感じているのは、パート11.5%、常勤30.7%、「あまり負担ではない」がパート30.2%、常勤14.4%を示し、常勤の仕事についている母親にとって、子育ての負担感がより大きいことがわかる。先ほど、就労状況にかかわらず、8割から9割の母親が子育てを楽しんでいること、そして、

なかでも常勤の母親が「とても楽しい」と回答する割合が、専業主婦、パートの母親と比較して高いことを述べたが、そうした楽しさにかかわらず負担感は大きい。

また、幼保別にみると、子育てをしながら働いていることを「とても負担」と感じているのは、幼稚園に通わせている母親が11.5%、保育園に通わせている母親が20.7%である。さらに、「少し負担」と感じているのも、幼稚園に通わせている場合は37.9%だが、保育園に通わせている場合は51.9%となっており、子どもを保育園にあずけている母親にとっての負担感が幼稚園に通わせている場合よりも大きいことがわかる。

■表5-3 子育てをしながら働いていることの負担感
(全体、母親就労状況別、幼保別)

(%)

	全体 (1768人)	母親就労状況別		幼保別	
		パート (950人)	常勤 (631人)	幼稚園 (591人)	保育園 (1177人)
とても負担	17.6	11.5	30.7	11.5	20.7
少し負担	47.2	50.6	51.5	37.9	51.9
あまり負担ではない	22.1	30.2	14.4	25.0	20.6
ぜんぜん負担ではない	3.7	5.4	2.1	5.6	2.7
無答不明	9.4	2.3	1.3	20.0	4.1

注) 表の「全体」の数値は、「専業主婦」(1709人)を除いて分析したもの。

第4節

子育てに対する意見

子どもの可能性を信じて、子ども自身の考えや関心、興味を優先することを重視する考え方が強いなかで、「子どもが嫌がっても、小・中学校は無理にでも通わせるべきである」といった相反する考え方も根強く支持されている。経年比較では、「子どものためには、自分が犠牲になるのはしかたない」という自己犠牲的な母親像を肯定する割合が高まっている。

子育てに関する意見について、その特徴や傾向を探るために、互いに異なる一対12組の意見を提示し、いずれか自分の意見に近いほうを選択してもらった(表5-4)。

◆一方の回答が多い項目

いずれかの選択肢に回答が偏っている項目は、次の5つである。

①「いい母親であろうとして、かなり無理をしている」(13.1%)よりも「とりわけ、いい母親であろうとはしていない」(85.1%)

②「もしかしたら、子どもを十分に愛していないかもしれない」(27.1%)よりも「子どもを十分に愛している自信がある」(70.8%)

③「子どもの進路は、親が責任をもって考えるべきである」(9.3%)よりも「子どもの進路は、将来、子ども自身に任せるべきである」(89.0%)

④「世間で名の通った大学に通ってほしい」(18.1%)よりも「大学進学や学校名にはこだわらない」(79.8%)

⑤「子どもは生まれつき能力が決まっていると思う」(11.5%)よりも「子どもは育つ環境によってどのような能力も伸ばせると思う」(86.6%)

これらのより数値の大きいほうの選択肢をながめてみると、母親たちの子育てについての一般的な考え方がみえてくる。それは、子どもの可能性を信じて、子ども自身の考えや関心、興味を優先することを重視している。

そのなかで、「子どもを十分に愛している自信がある」という回答が多いということは、子どもを中心にすえて、親の考えを押しつけないことが愛情であるという考えを反映しているのかもしれない。しかも、こうした愛情の注ぎ方は、「いい母親」になろうとして無理をした結果ではない。

◆一方の回答が多いものの(6割前後)、圧倒的多数とはいえない項目

回答が分散したのは、次の3つである。

①「子どものためには、自分が犠牲になるのはしかたない」(34.5%)よりも「子育ても大事だが、自分の生き方も大切にしたい」(63.8%)

②「子どもが嫌がるのであれば、小・中学校でも無理に通わせるべきでない」(35.5%)よりも「子どもが嫌がっても、小・中学校は無理にでも通わせるべきである」(60.0%)

③「わがママを言ったら、たたいてでもしつける」(34.2%)よりも「わがママを言ったら、分かるまで言葉でさとす」(62.4%)

じつは、経年比較でみると、①の「子どものためには、自分が犠牲になるのはしかたない」を選択する割合は、1997年調査-2003年調査で、24.2%から34.5%へと増加している。この点では、自分を犠牲にする母親像を肯定する割合が高まったといえるだろう。選択される割合が高いのは、「子育ても大事だが、自分の生き方も大切にしたい」で

あることには変わらないものの、この傾向が今後どのように変化していくのか、興味深い。

また、「子どもが嫌がっても、小・中学校は無理にでも通わせるべきである」という項目を選択する割合も圧倒的ではないが6割と高い。先ほど検討したように、子どもの考えを優先する、親の意見を押しつけないという考え方がより一般的ではあるものの、義務教育だけはきちんと受けさせるという考え方も根強いことがわかる。学校に行かないという

選択肢が以前よりは社会的に認知されるようになってきている今日にあって、「無理にでも通わせる」という考え方は、今後どのように変化するのだろうか。もちろん、今回の調査では、義務教育就学前の子どもをもつ母親が回答しているので、子どもが進級・進学するにつれて、こうした考え方は変化する可能性も否定できない。それにしても、子どもを中心にすえて、その考えや関心を優先しつつ、他方で、「無理にでも通わせる」という親の責

■表5-4 子育てに対する意見（経年比較）

(%)

	1997年 (2478人)	2003年 (3477人)
子育ても大事だが、自分の生き方も大切にしたい 子どものためには、自分が犠牲になるのはしかたない 無答不明	74.7 24.2 1.1	63.8 34.5 1.6
いい母親であろうとして、かなり無理をしている とりわけ、いい母親であろうとはしていない 無答不明	11.3 87.1 1.5	13.1 85.1 1.8
独身時代からずっと子ども好きだった 子どもはあまり好きなほうではなかった 無答不明	54.1 43.2 2.7	54.3 44.2 1.5
自分はあまり母性的な女性ではない 自分はわりと母性的な女性だと思う 無答不明	50.2 47.6 2.1	45.5 52.7 1.8
もしかしたら、子どもを十分に愛していないかもしれない 子どもを十分に愛している自信がある 無答不明	32.4 65.9 1.7	27.1 70.8 2.1
自分は子育てに向いている 自分は子育てに向いていない 無答不明	44.2 51.7 4.2	45.0 50.7 4.3
子どもが3歳くらいまでは母親が育てたほうがいい いつも母親がいっしょでなくても、愛情をもって育てればいい 無答不明	— — —	57.4 41.0 1.6
子どもの進路は、将来、子ども自身に任せるべきである 子どもの進路は、親が責任をもって考えるべきである 無答不明	— — —	89.0 9.3 1.7
子どもが嫌がっても、小・中学校は無理にでも通わせるべきである 子どもが嫌がるのであれば、小・中学校でも無理に通わせるべきでない 無答不明	— — —	60.0 35.5 4.5
世間で名の通った大学に通ってほしい 大学進学や学校名にはこだわらない 無答不明	— — —	18.1 79.8 2.1
わがママを言ったら、たたいてでもしつける わがママを言ったら、分かるまで言葉でさとす 無答不明	— — —	34.2 62.4 3.5
子どもは生まれつき能力が決まっていると思う 子どもは育つ環境によってどのような能力も伸ばせると思う 無答不明	— — —	11.5 86.6 1.9

任を果たそうとする、一見矛盾した子育てについての考え方が、家族や社会のなかに同居しているのが、今日の子育て状況なのかもしれない。

◆◆「3歳児神話」は今…

12項目の子育てに対する意見のなかで、母親の就労状況によって選択する割合が大きく異なっていたのが、「子どもが3歳くらいまでは母親が育てたほうがいい」－「いつも母

親がいっしょでなくても、愛情をもって育てればいい」という項目であった(図5-4)。専業主婦では「子どもが3歳くらいまでは母親が育てたほうがいい」が71.9%であるのに対して、パートでは51.8%、常勤では26.6%となっている。常勤では、「いつも母親がいっしょでなくても、愛情をもって育てればいい」を72.3%が選択している。

■図5-4 子育てに対する意見(母親就労状況別)

